

知るほどに効果的！

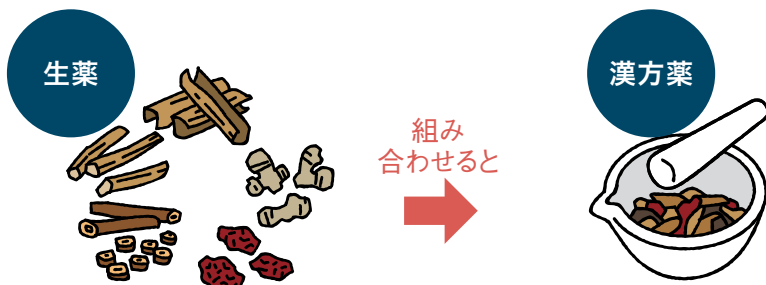
# 漢方薬入門

その1

聞きなれない言葉や専門用語が多く、難しいものと思われるが  
ちな漢方薬。ただ何となく使っていたという人も少なくない  
のでは？ 漢方薬を効果的に使うには、漢方独自の考え方を  
知ることがカギ。そこで今号と次号では、漢方薬についての  
疑問や、誤解されがちなことなどを分かりやすく解説します。



生薬の組み合わせや分量で処 方 名 前 が 変 わ る !



例：桂枝湯	桂枝、生姜、大枣、甘草、芍薬の5つの生薬で構成
桂枝を増量 →	「桂枝加桂湯」に変化
葛根を追加 →	「桂枝加葛根湯」に変化
葛根と麻黄を追加 →	「葛根湯」に変化



**監修者プロフィール**  
 ねもとゆきお  
**根本幸夫**先生  
 横浜薬科大学  
 漢方と漢薬調査研究センター長  
 特任教授 薬学博士

現職の他、日本漢方連盟理事長、総合漢方研究会会長、漢方平和堂薬局店主、昭和大学薬学部非常勤講師(生薬学・植物薬品化学)など数々の要職を歴任。主な著書は『やさしくわかる東洋医学』『うちではじめよう! 漢方生活』『台所漢方』など多数。近著に『東洋医学おさらい帳』(じほう)。



漢方薬は日本のもの!?

漢方は中国の医学と思われがちですが、実は日本で独自に発展したものです。基礎となっているのは今から2000年以上前に中国で生まれた理論で、それが6世紀頃に日本に伝来し、その後は日本人の体質に合わせて発展していきました。つまり漢方薬は、長い歴史に裏づけられた安全性や信頼性に加え、日本人にとって効果が出るように改良されてきた薬といえるのです。なお中国では、その後起こった様々な理論が集合され、現在では「中医学」と呼ばれています。



ちなみに「漢方」と呼ばれるようになったのは明治時代。その頃、オランダから入ってきた西洋医学を「蘭方」と呼んだことから、それと区別するために、中国の漢の時代に体系づけられた医学ということで「漢方」と呼ぶようになりました。

漢方薬と生薬の違いは?

生薬とは、長い歴史の中で薬効があるとされてきた植物や動物、鉱物などの天然由来物質のこと。乾燥させたり、酒に浸けたりして用いられるのが一般的です。

一方、漢方薬は2種類以上の

生薬を、決められた分量で組み合わせで作られたもの。それぞれ異なる薬効をもつ生薬を組み合わせることで、薬の効能や効果目の強さなど、最適な効果が出るように設計されています。さらに、生薬の量を増やしたり、種類を追加したりすると、右上の表のように処方名が変わるのも漢方薬の特徴です。

# どっちがいいの？ 西洋薬と漢方薬

病名から処方を決める

## 西洋薬

細分化して患部を診る



目的

病気の原因である細菌やウイルスをやっつけたり、症状を抑えたりすることが目的。消化器や循環器など体を細分化して考え、各分野の専門家が検査・診療などを行い病名を決定。それに合った治療薬を選択する。

特徴

熱や痛みをとる、感染症の原因菌を殺す、血圧を下げるなど、症状に対して直接的に作用する。はっきりと病名が分かった場合は、それに合った薬を使うことでピンポイントに効果を発揮し、症状を抑えることが可能。効き目が強く出すぎると副作用などが起きるケースもある。

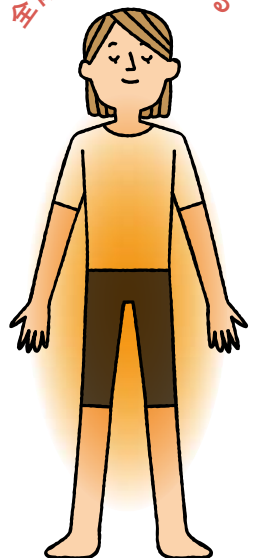
次号では漢方薬がどのような観点で調合されているか、また漢方が効きやすい体の状態をつくる養生法についてもお伝えします。

西洋薬と漢方薬にはそれぞれ長所があり、どちらが優れているということはありませんが、治療の考え方などは大きく異なります。特徴を正しく理解したうえで、上手に使い分けることが理想です。

ちゆ  
自然治癒力を高める

## 漢方薬

全体のバランスを診る



目的

体に本来備わっている自然治癒力を高めることによって病気を治すのが目的。体を部分的にはなく全体的に診ることで、全身のバランスを整えて不調を治す。

特徴

原因がはっきりしないが調子が悪い不定愁訴や未病、また更年期障害などにも対応しやすい。複数の生薬が組み合わさっているため、一つの漢方薬で様々な症状に効果を発揮する。緩やかに作用するためすぐには効かないと思われがちだが、かぜに使われる漢方薬など即効性がある物も。副作用は西洋薬に比べ少ないが、全くないというわけではない。

時代に合わせて変化  
漢方はより身近に

漢方薬は、古くは生薬を粉末にした散剤や、それを練って丸めた丸剤、あるいは煎じた液を服用する煎じ薬などがありましたが、いずれも味は悪く、量も多いためにみにくいものでした。しかし現在は、煎じた液から薬効成分を抽出して細粒や顆粒、錠剤にしたものが一般的となり、服用しやすくなっています。

薬局やドラッグストアで購入できる市販の漢方薬も、最近では処方ラインアップが増え、より身近な存在になりつつあります。例えば胃腸薬のカテゴリーを見ても、豊富な種類の漢方処方薬の製品が販売されています。中でも多いのが、漢方処方「安中散」を基に作られている製品。その安中散に「芍薬甘草湯」を加えた製品などは、市販の漢方胃腸薬として有名です。